別紙１
【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	岩手県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月日現在）

学校名	藤沢町立藤沢小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	２	３	１０	１８
児童数	３４	３８	２８	３９	３６	４２	１	２１８	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎・基本の定着を図る算数科の指導に関する研究
－習熟の程度に応じた少人数指導とＴＴ指導の工夫を通して－

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・　実施学年～全学年
・　教　　科～算　数

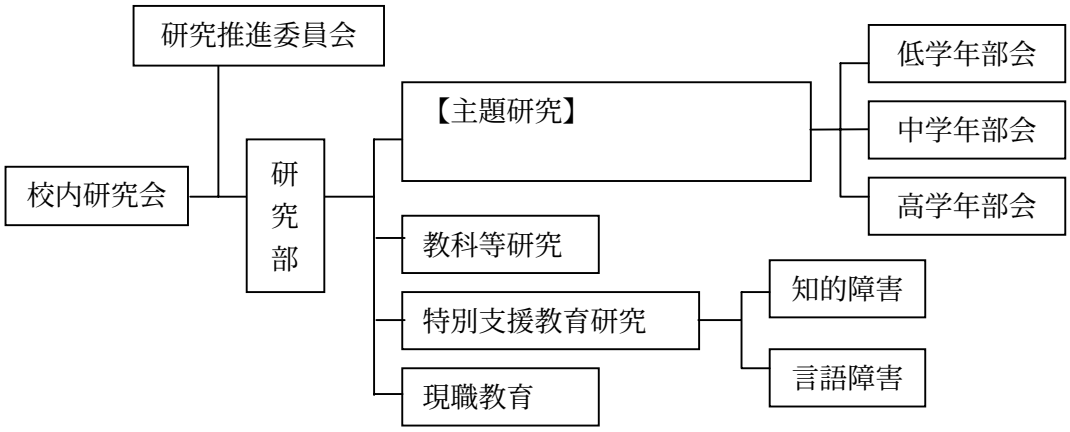
平成１４年度に実施した観点別到達度学力検査の結果をみると、全国比１００に満たない観点や領域があり、その傾向は学年が進むにつれて顕著であった。個人差も大きく学習を進める上で障害となることもある。更に、岩手県で毎年１０月に実施している学習定着度状況調査も県全体の平均正答率より低い結果であった。そこで、習熟の程度に応じた少人数指導やＴ・Ｔ指導を工夫しながら、知識・理解および処理・表現領域を重点とした基礎・基本の確実な定着を目指すこととした。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 基礎・基本の定着を図るための指導の在り方を授業実践により明らかにする。 ○　研究の見通し 基礎的・基本的内容を明確にし、評価の判断基準を設定した授業を習熟度別少人数指導やＴＴ指導できめ細かに行うことにより基礎・基本の定着を図っていく。 ○　研究の内容・方法 １　基本構想の立案のための実態分析と少人数指導やＴＴ指導の有効性の検討 ２　基礎的・基本的内容や判断基準を明確にした指導案や指導過程の工夫と作成 ３　基礎・基本の定着を図る算数科の指導に関する授業実践と結果の分析と考察

平成16年度	○　テーマ 基礎的・基本的内容を明確にした習熟度別少人数指導やＴ・Ｔ指導と発展や復習を取り入れた授業、そして、家庭との連携を通して学力向上を図る。 ○　研究の見通し 教科書を基本とした指導展開で教師が事前にノートを作成して授業に臨むこと。学習結果の通知などにより家庭との連携を図ることで基礎・基本の定着を図っていく。 ○　研究の内容・方法 平成１５年度の研究成果である指導形態の工夫や基礎的・基本的内容の吟味と課題である発展学習や復習、家庭との連携を日常の指導実践に生かし学力向上を図る。

(3)　研究推進体制



今年度は初年度であり研究部が中心となり研究の基本的方向性を提示する。それに基づき各学年部会が校内研究会（授業研究）で提案授業を行い、全員で検討していく。校内研究会には指導主事を招き助言をいただく。提案授業は全ての学年が実施するとともに、特別支援教育の授業も参観し、各学級の理解に時間のかかる児童の指導の在り方や見方などに役立てるようにする。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　評価の判断基準と未達成な児童への指導の手立てを設定して指導することにより、基礎的・基本的内容の確実な定着や個に応じた指導に役立った。特に今年度は、知識・理解、表現・処理を主として取り上げたが、表－１に示したように単元テストでは、殆どの学年で全国比を上回る結果となった。

また、学習定着度状況調査の比較でも向上がみられた。（表－２）

【表－１単元テストの比較　（全国＝100）】

	知識・理解	表現・処理	考え方	総合
１年生	106	109	100	105
２年生	87	90	88	89
３年生	107	109	108	108
４年生	104	106	105	105
５年生	107	109	101	107
６年生	99	100	91	99
全　校	102	105	99	102

【表－２学習定着度状況調査】

	正答率	
	県平均	６年
今年度	77%	73%
昨年度	77%	65%

○　少人数指導やＴＴ指導を行うことによって、一斉指導の中で見落としがちになっていた児童や理解に時間のかかる児童に対する支援、指導が意図的にできるようになった。下位グループにおける実際の指導では、既習事項の復習を展開の中に入れたり、グループでの操作活動を行ったり、スモールステップで確認しながら授業を進めるように工夫した。第６学年の実践では、下位グループの有効度指数が７１であり、指導の効果が見られた。

また、ＴＴ指導では、Ｔ２が取りかかりの遅い児童への声がけをしたり、習熟の段階で未達成児童への個別指導、グループ指導をしたり、役割を明確にするようにした。また、Ｔ１、Ｔ２が机間指導を行う範囲を分担しておくことで効率的な指導や助言をすることもできた。

【表－３少人数学級やＴ・Ｔに関する意識】

少人数やＴ・Ｔは	よい思うと	どちらかというとよいと思う	どちらかというとよいと思わない	よいと思わない	無答
１年生	85%	6%	9%	0%	0%
２年生	63%	21%	5%	11%	0%
３年生	86%	14%	0%	0%	0%
４年生	97%	0%	0%	0%	3%
５年生	86%	14%	0%	0%	0%
６年生	29%	36%	14%	14%	7%
全　校	72%	16%	5%	5%	2%

（Ｎ＝210、実施 11 月末）

○　表－３は、少人数学級やＴ・Ｔに関する児童の意識である。これをみると、ほとんどの児童は少人数指導やＴＴ指導に関してよい評価をしている。自由記述の回答にも、「分からないときにすぐに教えてもらえる」、「質問しやすい」、「静かに勉強できる」、「集中してやれる」、「丸をすぐ付けてもらえる」などの肯定的な意見が多くみら

れた。ただ第６学年は、第１学年時から２学級編成であったので習熟の程度に分けたり、ＴＴ指導をしたりすることがなかったので約３０％はマイナス傾向の評価であった。

２．今後の課題

・　打ち合わせや準備、教材研究の時間を確保し、研究成果を日常的に実践していく方法を工夫する必要がある。
・　進んでいる児童の発展学習や不十分な児童の復習や繰り返し学習の方法、時間設定を工夫していき一人一人の力を更に伸ばす必要がある。
・　学習結果の通知や学習の習慣化、基本的生活習慣の確立等、家庭連携を更に図る必要がある。

上記課題を解決するために、教科書を基本とした指導展開や全校統一のノート指導、単元の終末段階の発展や復習時間の設定を工夫していく。また、学力向上フロンティアスクールの取組の周知を図り、保護者の協力を得ながら学力向上を図っていく。児童の家庭生活や生活習慣の現状は、学習にとって必ずしも望ましいものといえない部分があるので改善を図っていく。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

・　標準学力検査（基礎的・基本的内容の定着状況の検証）～２学期末
・　単元の事前、事後テスト（基礎的・基本的内容の定着状況の把握）～単元毎
・　児童の学習に対する意識調査（学習意欲や関心の変容の把握）～学期毎

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・　平成１５年度研究集録の作成と町内各小中学校への配布（平成１６年、２月）
・　学校公開研究会の開催（平成１６年、９月上旬予定）
・　平成１６年度研究集録の作成と町内各小中学校への配布（平成１７年、２月）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。　（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■　１５年度からの新規校　□　１４年度からの継続校

【学校規模】　□　６学級以下　■　７～１２学級
□　１３～学級　□　１９～２４学級
□　２５学級以上

【指導体制】　■　少人数指導　■　Ｔ．Ｔによる指導
□　一部教科担任制　□　その他

【研究教科】　□　国語　□　社会　■　算数　□　理科
□　生活　□　音楽　□　図画工作　□　家庭
□　体育　□　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■　有　□　無